

「ロータリーの目的に沿った奉仕活動の捉え方」

2023-24 年、クラブの各奉仕委員長様にロータリーで言うところの奉仕活動について、お話申し上げます。テキストには「ロータリーの目的」と併せて、大凡の捉え方は記載しておきましたが、奉仕に対するロータリーの切り口を確り捉えないと、他団体と何処が違うのか説明出来無くなってしまいます。また、これを理解しておけば、会員拡大の呼びかけもやり易くなると思いますので奉仕の全体像について説明します。テキストの「ロータリーの目的」を見ながら聞いてください。

まずもってロータリー活動の原点である目的についておさらいします。目的は前段に「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」と書かれています。和訳に間違いは無いと思いますが、ニュアンスとしては、やや解かりにくいかもしれません。勿論、目的については、ロータリー誕生以来何度も議論を重ねて今日に至ってきました。ただし、多くの書籍に書かれている様に、ロータリー活動は当初から職業倫理が原点にあります。

ロータリーの誕生についてポールハリスを持ち出して歴史の話をするつもりはありませんが、当時の米国シカゴの街の様子を想像すれば何故に彼らが立ち上がったのかイメージが浮かぶはずです。

南北戦争を終えて 40 年余りが経過した 1900 年初頭の米国はイギリスを追い越し世界有数の産業国へ着々と邁進していました。その強い産業力が、人々に幸せを実感させていたことと思います。

様々な産業が礎となって快適な社会を作るのは承知の通りですが、当時は農場でも工場でもヨーロッパからの移民による安い労働力と劣悪な作業環境が普通であり、しかもそこに甘い汁を求めるギャングが横行した時代です。因みに、ギャング映画でお馴染みの有名人アルカポネがシカゴに登場したのは 1920 年です。完全に重なるものではありませんが、当時の風景が想像できます。こうした環境の下、勇氣と高い志を持った人たちが、社会に幸せを齎している職業こそが健全に役割を担うべきと考えたはずです。

ロータリーの揺るぎない目的は、こうした環境下で育ったはずに間違いありません。しかし、目的を固めても具体的にどう展開して実を結ぶのか考えた際、自らも含めた人材育成と高潔な職場づくりと気付いたのでしょう。それは目的の前段に続き、4 つの奨励と称して紹介しています。

ここでロータリーで頻繁に用いる「奉仕」について補足しておきます。奉仕と言うとすぐ頭に浮かぶのは、ボランティアや人助けなどを指す様に感じますが、ロータリーを紹介する書籍の多くにはそのように説明しておりません。ロータリーで言う「奉仕」は、原文で Service と書かれています。日本人感覚でサービスと言うと、大半は奉仕どころか「タダにして」とか「おまけしろ」と連想してしまいます。一方皆さんはロータリーで言うところのサービスを多分無意識に使っています。レストランやホテルで「今日のサービスは良かったですよ」と使ったことがあるはずです。この時のサービスは、「料理や接遇に満足しました」であって、「安くしてもらってありがとう」では無いはずです。このサービスこそ、良い仕事を提供して役目を果たすということです。更に、奉仕というとボランティアを想像しますが、Volunteer は有志や志願の意味合いです。余談ですが志願兵を Volunteer Soldier と言いますから、我々が描くイメージとはかなり違っているのではないのでしょうか。こうしたことを踏まえて「奉仕」を理解すれば的確に対応が出来ると思います。

さて、具体的な掘り下げをします。

1 つ目は「知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること」と書かれています。これこそがクラブ奉仕であり、「仲間同士切磋琢磨して研鑽を図りましょう」ということです。高潔と言う言葉も度々登場しますが、リーダーにとって欠かしてはならない素養です。この素養を身に付けたリーダーの職場こそ、間違いなく社会に役立つとの思いからの展開です。仕組みは変わりましたが、長年会員選考において職業の重複を避けてきました。競合の無い者同士が集まる組織だからこそ意見交換すれば新たな発見が可能なのです。しかも、そこで得た気付きは各人違った土俵で発揮するので仲間を貶めるようなことはありません。クラブ奉仕の基本でもある卓話を引き受けた場合は、自分の経験を語り伝えることが求められます。そして、聞き手は

仲間の経験に学びを得ることが必要です。この関係は、クラブ内ばかりでは無くメーキャップと称して広く応用されます。これ以外にもロータリアンを対象とした多くの研修プログラムは同様の機能を持っています。何れもリーダーシップスキルなどを磨くために生み出したアイデアです。この様に、ロータリアンがロータリアンの為に尽くすのがクラブ奉仕なのです。

2つ目は「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」と書かれています。クラブ奉仕で培ったノウハウを自分の職場や所属する業界に浸透させることを掲げたものです。昔から商売の基本原理は、「良く・早く・安く」と言われてきました。例えば、本当に良いものを提供する努力をしているだろうか。などと掘り下げて見るのがポイントです。良いものを安く売るのは立派だと思いますが、安かろう悪かろうは間違っているはずで。そのようにして、高潔なサービスとはどういったものなのか、自社はもとより業界のためにも為すべきことが見えてくるのではないのでしょうか。社会から必要とされる会社を作り、職業の発展に尽くすことが職業奉仕です。因みに、業界と言え大袈裟で重荷にも感じますが、ロータリアンの多くが業界の重責も担っていることを思えば、取組まなければならない立場にあるのです。

3つ目は「ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること」と書かれています。クラブ奉仕や職業奉仕で磨いた成果を、社会に向けて発揮しなければなりません。そうすることによって、社会を幸せにすることが出来ます。簡単に言えば職場や職業を通じて社会の為に「しっかりした仕事をしなさい。」という極当たり前のことです。これが社会奉仕であります。

最後、4つ目に「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」と書かれています。いよいよこの域にくると日本人感覚であるボランティアの登場です。自身や職場の果たすべき役割は当然出来ているものとして、「広くロータリアンが職業と言う枠を超えて手を結び、社会に手を差し伸べる行動をしましょう」です。勿論、ここでは仲間の為に行う「クラブ奉仕」、職業に高潔を齎す「職業奉仕」、職業の成果を社会に発揮する「社会奉仕」を満足したうえでの「ボランティア奉仕（買って出る奉仕）」と言ったところでしょう。勿論、ボランティア奉仕は勝手に作った言葉ですが、ここには将来の活躍を願う青少年奉仕や地球規模で行動する国際奉仕などが関わってきます。

さて、これ等の整理が付いていないとどうなってしまうのでしょうか。皮肉っぽくなりますが、多分こんなことでは無いでしょうか。クラブの皆で地域の清掃活動をすれば「クラブ奉仕」。職場の皆を引き連れて清掃活動すれば「職業奉仕」。だったら「社会奉仕」は何なのよ！」となってしまうわけです。

今回の説明は、ロータリーの目的に端を発する奉仕活動を記載通りに分類して表現してみました。何度か話題にしたようにロータリーに造詣の深い諸先輩の執筆の多くが、職業倫理の醸成と発揮にあるという結論です。ロータリアンになれば、社会に役立つ、社会から求められる職場を作る為のプログラムが思いのままに手に入れられます。しかも、そのネットワークは世界中に張り巡らされているのです。利用しない手はありません。世間では、儲け話をすると卑しい様に感ずる風潮がありますが、皆さん一人一人の職場・職業が社会を支えているのは事実です。ボランティア奉仕に偏った取組から、少し戻ってロータリーの掲げる奉仕活動を理解し進めてまいりましょう。

第一歩は、これまで行ってきたクラブの活動が、どれに該当しているのか振り返って見ることです。そのうえで欠けた部分を見直せば今後の委員会活動は、もっと解り易いものになるはずで。しかも、適切に実践出来れば他団体と違いもハッキリ語れるようになること間違いありません。

研修会の質問からのアドバイス事項

各奉仕活動の「目的」を事前に描けば、同じ行動でも達成感は的確な方向に向かうはずで。折角の「ロータリーの目的」も「ロータリーの行動」で終わったのでは幅が狭くなってしまいます。

また、当り前に歌っている「我らの生業」や「奉仕の理想」の歌詞にも生業が登場しています。